

第2学年 道徳学習指導案

期 日 平成27年10月21日（水）第3校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校 2年1組教室
指導者 教諭 古閑 彩香

1 主題名

「わがままをしない心」 A-3 節度・節制

2 資料名

「一日 田うえ」（道徳教育用郷土資料「くまものこころ」）

3 主題について

(1) ねらいとする内容項目（価値）について

本主題は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活を送ること」に関する内容項目である。これは、中学年の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、摂動のある生活をする事」、高学年の「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること」に発展する。

人は、社会的なつながりの中で助け合って生活している。自分勝手な行動は、他者に迷惑をかけ、時には自分も被害を受けることがある。一人一人がよりよい生き方を目指し、明るい社会を築いていくためには、人の注意を素直に聞き、節度ある生活をするとともに、自制心を持つことが重要である。低学年の段階においては、自己中心性が強く、他者の気持ちに気付かず衝動的に行動してしまい、注意を受けることも多い。その際に「わがまま」や「自分勝手」という言葉を用いて注意を受けたり、反対に注意を促したりすることがある。本来「わがまま」とは、「他人の迷惑も考えないで、自分の思うように行動すること」を指す。自らのとっている行動が「わがまま」であるかどうかの判断基準としては、他者の視点から客観的に把握し認識するメタ認知力が必要である。しかし、低学年の発達段階から鑑みるに、「わがまま」であると注意を促されても、その意味を十分理解できないまま言葉のみを覚えてしまう傾向も考えられる。主として自分自身に関する内容項目ではあるが、他者の視点から自らの言動を振り返る学習過程を積極的に取り入れることで、節度ある生活の意義を実感することが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級は、32名。事前に行った児童の道徳性に関わる意識結果では、児童自身が肯定的に受け止めている項目として、「道徳の時間」「人とかかわり、規範意識」が見られた。道徳の時間については、9割以上の児童が「好き」と回答していた。また、「家の人や友だちとの約束を守っている」や「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う」の項目については、意識が大変高いことがうかがえた。これまでのかかわりの中で、児童同士及び児童と教師との信頼関係が構築されてきている表れであると言える。

反対に、学級全体として肯定的な受け止めが十分でないと考えられる項目としては、「善悪の判断」「基本的な生活習慣、自立心・自律性」が見られた。「人として、してはならないことをしない（うそをつかない、人をきずつけない、人のものをとらない）」については、「できていない」と回答する児童が多く、学級の課題としてとらえている。さらに、「身の回りのことをできるだけ自分でしている」の項目についても、否定的に受け止めている児童が見られる。日常生活場面において、より自らの言動を客観的にとらえ、粘り強く振り返らせていく指導が必要であると考え。

道徳の時間に関するアンケート結果は、以下の通りである。

	調 査 項 目	平均
1	道徳の時間に、自分にとって大切なことがわかる。	3.39
2	道徳の時間に、今まであったことを思い出して、その時の自分と比べながら考えている。	3.10
3	道徳の時間に、これからの自分はこうしていきたいと考えている。	3.48
4	道徳の時間に、自分の思うことを発言できている。	3.48
5	話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べながら聞いている。	3.42
6	話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある。	3.16
7	話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	3.35
8	道徳の時間に、ペアでする話合いが好きである。	3.03
9	道徳の時間に、ペアでする話合いは、自分が考えるために役に立つと思う。	3.03
10	道徳の時間に、グループで話し合ったり活動したりすることが好きである。	3.48
11	グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.16

※平均：4「そう思う」、3「だいたいそう思う」、2「あまり思わない」、1「思わない」の平均値
アンケートの結果から、道徳の時間において価値に対する理解や道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いは培われていることが分かる。また、道徳の時間に自分の考えや思いを発言しようとする意欲も高い。

学習形態として少人数のグループによる話合いは好むものの、二人組の意見交換については、そのよさをとらえ切れていない傾向が見られる。他者の意見を受け止め、自らの意見と比較しながら再構築するという学習訓練が必要である。

本主題に関する調査を実施したところ、4割近くの児童が自分を「わがまま」な方だと考えていることが分かった。しかし、自らの自己中心的な言動が他者に迷惑をかけているという認識にまでは至っておらず、「わがまま」という意味をとらえ切れていない実態が分かった。このことから、自分たちの言動を客観的に振り返る視点を持たせていくことが必要であると考えられる。

(3) 資料について

この話は、山鹿市菊鹿町米原と菊池市木野の境（鞠智城跡のあるあたり）に住んでいたといわれる米原長者の話である。米原長者は、広い田畑をもち、大勢の使用人を使い豪勢な生活をしていたと伝えられている。

米原長者のわがままな行動「沈みかけたお日さまを招き返したこと」「ひのおか山に油をまいて燃やしたこと」等に焦点を当て、天をおそれぬ長者の利己的な欲望を浮き彫りにする。この利己的な欲望と、長者の家や蔵が燃えた因果関係を考えさせることによって、わがままな行動が身を滅ぼしたこと、節度ある行為が必要であることに気付かせることのできる資料である。

(4) 指導に当たって

- 事前アンケート結果や資料、話合いの手順を提示するにあたり、効果的にICTを活用することで、児童がより問題意識を持って授業に臨むことができるよう工夫する。
- 学習を展開するに当たっては、資料に対する児童の感想を生かしながら本時の課題設定し、その課題を解決する過程を通して、児童の授業に対する興味関心を高めていく。
- 「米原長者」の話は、山鹿市に残る昔話であるが、その点については導入部分で簡単に触れる程度で取り扱う。また、児童の日常生活の中で身近でない「長者」という言葉とその権威等については、できるだけ児童がイメージしやすいように補足説明する。
- 発問の精選を図り、児童の活動場面を多く設定する。また、発問については、お日さまや村人の気持ちを問うことで、主題に対する客観的な視野を身に付けていけるよう工夫する。
- 役割演技を行うグループは、学級や個々の児童の実態等を考慮しながら、事前に3～4名程度で編成しておき、スムーズに活動が進められるよう配慮する。
- 児童の発達段階や実態等を考慮し、ワークシートと別に振り返りシートを用意することで、学習評価の一助とする。

【共同研究との関連】

【視点１】 学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点２】 学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点３】 学びを支える 一人学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点１】 資料の主人公に対して、児童の感想からめあてに迫る課題（テーマ発問）を設定する。その課題解決を図るための過程の中で、児童同士の意見交流や役割演技といった友達とかかわり合いながら学びを進める学習活動を設定することで、より主体的・協働的な学びを引き出していく。	【視点２】 児童と共に設定した課題（テーマ発問）に対して、再度展開後段に振り返りの場を設定することで、児童の価値に対する自己理解の再構築を促す。 また、低学年の発達段階を考慮し、興味関心が高まるような構造的な板書づくりを計画する。	【視点３】 発問の精選を図り、児童が意見を考えたり交流したりする時間を十分確保する。 また、役割演技の中にグループ活動を設定し、友達と協働しながら道徳的価値について考えを深めるよう工夫する。

◇インクルーシブ教育の視点から

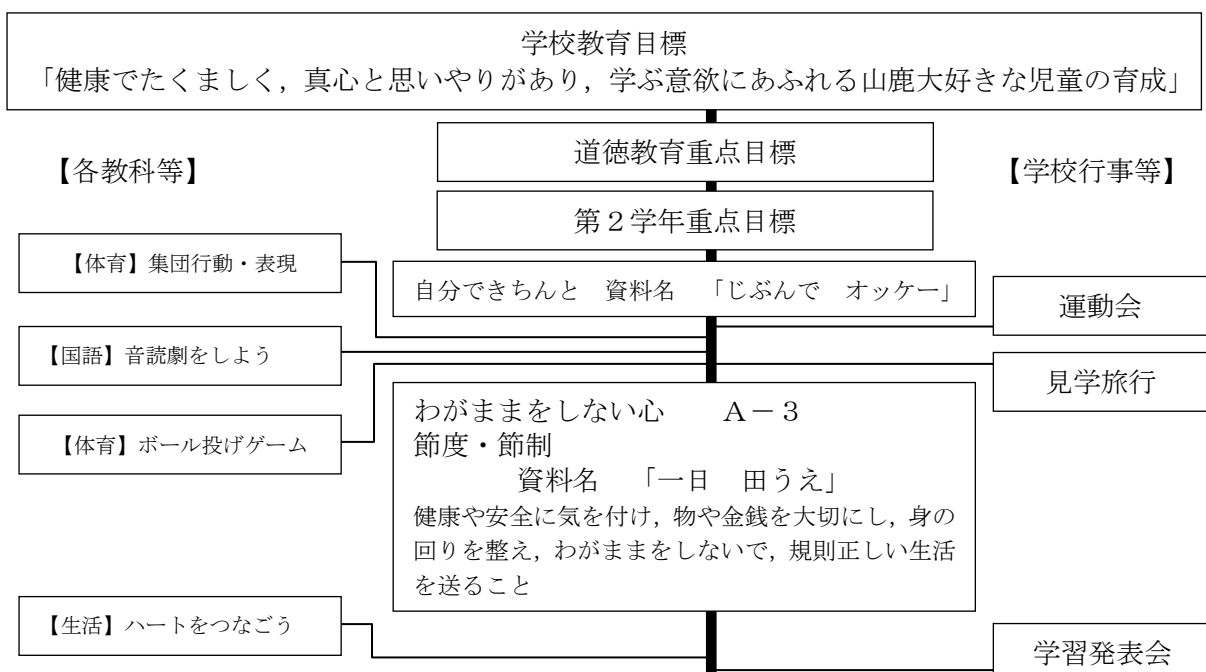
【基礎的環境整備】

- ・グループによる役割演技の活動が円滑に進むよう、事前に人数や構成、学習リーダー等について配慮したグループ編成を行う。
- ・低学年の発達段階を考慮し、より明瞭・簡潔な学習シートを準備する。
- ・一人一人が学習に見通しが持てるように学習過程を提示する。

【合理的配慮】

（省略）

3 各教育活動との関連



5 本時の学習

(1) ねらい

米原長者の行動を村人の立場から考える活動を通して、自分本位のわがままな行動が自他ともに迷惑をかけることに気づき、節度を考えて行動しようとする心情を養う。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 アンケート結果から、自分たちの「わがまま」(自分勝手)な言動について振り返る。	自分を「わがまま」な方だと思いますか。	○アンケート結果から、児童の考える「わがまま」の意識を確認し、本時のねらいとする価値に対して焦点化を図る。	PC 電子黒板
展開 35分	2 米原長者について知る。	「米原長者」というお話を知っていますか。	○米原長者の所有する田畑の広さや飼っている動物の数、雇っている人の数を知らせることで、長者に対するイメージを持たせ、児童の興味関心を高める。	フラッシュカード 挿絵
	3 資料「一日 田うえ」を聞いて、話し合う。 (1) 米原長者の人柄について考える。	あなたは、長者どんをどんな人だと思いますか	○資料はDVDを視聴させながら提示する。	DVD
	【テーマ発問】 どうして、わがまま（自分勝手）な行動をしてはいけないのだろう。			
	(2) 金のおうぎでお日様をまねき返す長者の気持ちについて考える。	「しずむな、もどれえ、もどれえ」と金のおうぎでお日様をまねき返す長者どんは、どんなことを考えていたでしょう。 また、そのことをお日様はどう思っていたでしょう。 ・何てわがままなんだ。 ・休みたいのに迷惑だ。	○自己中心的な行動とその行動を見ている他者の視点を対比して考えられるようにする。 ○日常生活における自己中心的な傾向が現れる場面を合わせて想起させることで、同様の気持ちが自分たちの中にもあることに気付かせる。	挿絵
	(3) 山を燃やしたことで、自分の家や蔵を燃やしてしまった長者に対する村人の気持ちを考える。	「村人は、三千樽の油をまいて山を燃やしたことで、自分の家や蔵を燃やしてしまった長者どんのことをどう思っていたでしょう ・山を燃やしたりするから、バチが当たったんだ。 ・家が燃えちゃった。本当に迷惑だ。	○個人で考えた後、4人グループで意見を交換し、村人が集まってどのような会話をしていたかを想定した役割演技を考えさせる。 ○お互いの考えた意見を見せ合い、会話の順番を考える中で、多様な考えに触れさせ、自身の道徳的価値の自覚を深めていく。 ○グループの発表を聞く中で印象に残った言葉を出し合うことで価値の自覚化を図る。	ワークシート 図
まとめ 5分	(4) わがままな行動をしてはいけない理由について話し合う。	「なぜ、わがままな行動をしてはいけないのでしょうか」	○自分本位の行動が自他ともに迷惑をかけてしまうことにつながることに気付かせる。	
	4 自分の生活について振り返る。	わがままをしないで、みんなのことを考えて行動していた人を見つけたので紹介します。	《評価》(振り返りシート) 自分のわがままな行動が周りの人たちに迷惑をかけることを理解し、人の意見をよく聞き、節度ある生活を送ろうとする気持ちが表現されている。	振り返りシート
	5 教師の説話を聞く。	先生にも自分のわがまままでに迷惑をかけた経験があります。	○自分の行動と他者の心情との関わりについて気付かせる。	